日本大學農獣醫學部校友會報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員会
印刷所
東京朝工KK

農芸化学科設置決る

文部省に書類提出

農学部設立当時から会員の懸願であり、また昭和二十九年四月以来農獣医学部校友会に於て、その対策に並々ならぬ努力を傾けて来た農芸化学科の設置問題も大学当局の強い理解と農獣医学部では昭和三十三年四月には乃部教授等数名の新教授が補充され、その実現も目前に迫って来た。日本大学拡充計画の一環として農芸化学科を設置するという構想の許に、今秋日本大学本部より文部省に申請の書類が提出された。

昭和二十年五月神奈川県相模の地に疎開されたことは、当初から農獣医学部の最も苦心した問題であつたが、戦後の荒廃の中に農芸化学科の設置された当時から農芸化学科内容を持つものとして、農獣医学部校友会は農獣医学部校友会が農学科に部分的に存在していた。然しこれはあくまで農学科の一部であつて独立学科ではなく、学問体系の上からも又農学部の学科構成の面に推進することを決定し一切は理事会に一任された。その後理事会は昭和二十二年四月に本部会議において事業は大詰切りの状態であるから本部当局より、古田理事長、佐々木専務理事、鈴木常務理事、小野教務部長の四氏を加え農獣医学部から岩田学部長・大森部長・石部事務長の三氏が委員となり、同先生の指導のもとに現役大学教授の親切な計入りを得て着々整備中の農芸化学科の一つがこのように、又三年目の昭和二十一年度に農学の総長に昇格し関する要望書を提出した。社会の要求に反して、農学の総長に昇格し関する要望書を提出した。社会の要求に反して、農学の総長に昇格し関する要望書を提出した。

農獣医学部の学科を基礎として、必要の時間に非公式会議が行われた。

各出席者から種々の質疑応答があつたが、古田理事長から会議の結果として、農芸化学科の主任教授として、農獣医学部内に農学科の専任教授と他学科の主任教授よりなる学科構成研究委員会が組織され、数回の討議の結果同年十月二日にその時間表作成が岩田学部長に提出された。農獣医学部当局においても同案を慎重検討され、結果本年夏より、農芸化学科設置問題に関し岩田学部長・大森部長・石部事務長は休暇中にも度々会議を開き、後藤裕次、酒田貞次郎両教授を中心にして、農芸化学科設置のために並々ならぬ努力を傾けられ、去る九月上旬の大学本部における教育委員会においても、満場一致で設置案が承認され、その後大学本部より文部省に申請書が提出されつつある。「脳のあく、何処

農芸化学科の設置について

農獣医当局談

特選の農芸化学科設置に伴う諸問題が出しても、流石日大農芸化学科の卒業生である、といわれる人材が見えて来た。本部にもその委員会が設けられ急速に準備が進められ、既存の長岩教田・後藤の両先生の非常な協力のもとに学部当局の指導に、農芸化学科設置の問題は、教育部会の審議は相当慎重である。

本部より文部省に申請書が提出されたことは、今後その審査の結果が待たれる。

新校舎第二期工事決る

十月着工に努力

第一期新建築の終了と共に計画されていた第二期鉄筋工事は、学部としてみれば、この工事は大金横引締めという厳しい状況に逢、学院当局の専攻及び農芸化学科設置の、八月初旬の予定が延び延び、となつて今日に至り、関係者として焦慮に堪えんでいたが、去るして頂いたことは、誠に感謝に堪えない。

鉄筋コンクリート地下（半地下）一階地上四階建延約二千坪の新校舎が、十月八日の理事会で、条件付きで、学部長・教授・職員・学生の、学部長・教授・職員・学生の、

この建築が出来上れば当学部に於ける化学面の施設が、部分的ながら、早く、名実ともなつて大科学殿堂となる。大方の物心両面に渉る後援を願ひ、切に希求して止まない次第であります。

学部長再選さる

岩田耕作学部長

去る十月二十一日、臨時教授会が招集され、会員出席、学部長および農芸化学科の改選についての議題が審議されたが、会員一致で岩田学部長が再選された。

岩田学部長は再選の決意を次のように本紙に寄せてきた。

昭和二十九年夏農獣医学部長に選任されてから三年が過ぎた。この間これという何もなかつたことは遺憾であるが、ただ昭和二十年に新校舎が落成したことと、同年獣医学科の大学院に博士課程が認可になつたことは御同慶にたえないことである。

本年夏学部長の三年の任期満了につき再び教授会を召集して新学部長の選挙を行つた処、はからずも全教授諸賢の満場一致の推に依り再選されることになつたが、その責任の重大なことは目夜痛感している所であります。

とりあえず本年度中に第二の新校舎を建築することと併せて農芸化学科に専課程に獣医研究の修士課程の設置と農芸化学科を独立させる意図のもとに目下認可申請中であります。その外水産科の補習部を維持すること、模範牧場の拡張化、農場、演習林、畜産加工場ならびに家畜病院の拡張等につき成るべく早急にそれぞれ実行に移したいと考えている。

しかし、上述のどの一つをとらえて見ても教職員各位の協力一致と授業各位の強力な御支援なくしては出来ないことでありますので、旧に倍しての御協力と御支援とをお願いする次第であります。学部長再選に際し、各位に対し深甚の敬意と感謝の意を表すとともに、今後その任を果す道筋のいくつかを述べた次第であります。

東南アジアを視察して

会長　工藤正城

人口問題や技術移民問題で脚光をあびている東南アジア地方について、その近況、現状を視察し又逆に此等の地方から見た日本は如何にうつつているかを知るための機会として今年七月初旬空路出発、香港、ラングーン、カルカッタ、カラチ、ニューデリー、カルカッタ、ラングーン、カンボディヤ、プノンペンを経て、サイゴンを経て一ケ月余の後、八月初旬祖国に帰国しました。

途中各地の教育機関、文化施設、移住地等を視察し、感じましたことは何れの国も高度の近代化即ち工業化をめざしているがこれはそれぞれの民族の状態、過去に行われて来た植民政策から完全に脱却していない現状とからして適当な段階をへておらずあまりにも飛躍しすぎているのではなかろうかとの感を深くしました。御承知の様に東南アジアは多くの資源にめぐまれその将来は大きなものがあります。

この将来は今回の視察旅行によりますが、此等の国々と我が日本との関係をみますと、共に東洋人間系であつて、その農作物等は同じものが多く、又日本人が各国の気候風土に順化し易い点、高等の技術をもつている点等からして、各地の生産物の改良増殖は日本の指導にまつものが多く、今後東南アジア各地に対する技術移民は特に有望との結論を得ました。

又印度に於ては、その膨大な資源開発の活力に接し、アジアを知るためには印度を知ることの必要を痛感致しました。

終りに今回の視察旅行によりその関係者の方々の御指導御厚意に対し厚く御礼申し上げます。

学部祭行事予告

10月31日　前夜祭　仮装大会（本部にて参加）
11月1日　実験生物標本祭　学内開放展示会　映画会
11月2日　学内開放展示会　仮装行列（当部附近）　講演会
11月3日　学内開放展示会　附属高校招待蹴球大会

昭和三十二年度校友会役員

役名	氏名
会長	工藤正城
副会長	白井恒三郎
副会長	白山巖
理事	山本秀雄
〃	上野勲
〃	蒲原務
〃	小関滝
〃	金田禎之
〃	設楽茂雄
〃	桑原志都夫
〃	白井恒三郎
〃	福島正次
〃	白山巖
〃	田島貞次郎
〃	野崎邦典
〃	来米速水
〃	佐藤弘一
〃	三木敏夫
〃	河村光幹
〃	杉原要
〃	宮崎善三
〃	東禎三
〃	加瀬恒夫
〃	納賀栄之
〃	工藤正城
〃	北川休
〃	福田秀夫
常任委員	工藤正城
〃	白山巖
〃	桑原志都雄
〃	佐藤弘一
〃	山本秀雄

獣医学科創設五十周年

日本大学獣医学科が誉ての東京　発展は欠くことの出来ないとこ獣医学校の発展形態として今日往　ろのものである。この本質的な性せんな。今その歴史を振り返ってみと合併し、日本大学農獣医学部の　格の変化を辿って日本大学農学部ますれば、時は明治四十年、所は　重要な一学科となったのは昭和二　に昭和二十六年以降の急足な発展　人、長い歴史の間に尽瘁せられた　恵比寿（今のエビスビールの所在　十六年。爾々、内容に於いては日　本大学中央当局の並々ならぬ　地）そこに設立されたのが東京獣　本大学獣医学科創設以降の急足な　配慮と推進のあった結果に外なら　医学校であった。それが駒沢村下　獣医学科を持つ大学十四を数える　千の校友諸々が常に深く心肝に銘　馬（今の母校の所在地）に移転し　中で、大学院博士課程を有する　ないのである。このことは七　たのが大正十三年。大正十五年に　の四三〇という中の一つ（他は東　じていところである。

獣医学科創設五十周年

獣医学科創設五十周年を迎えんとして居ります。

耕種同窓会だより

校内近況

就職状況

明（臨時）

○学内近況

○臨時総会を開く

○校友会の事業

○就職のお願い

○学生部祭持寄会

○新幕集生の就職依頼

○書籍報

○会費報

○就職状況

○校友会の事業

○会報

○編集会

○会報

○会費報

○就職のお願い

○役員会開催

○学内報